

(4) 現場番号 1001

広島 民有林

【コメント】

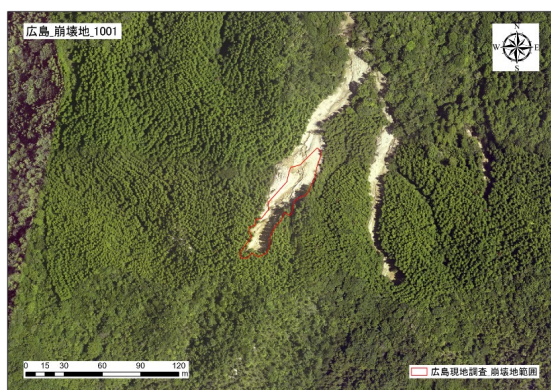
崩壊・根系) 現地調査の崩壊深度から 1m 程度と想定される。21 年生と若い。根の伸長は 0.6m 程度である。土質は、国有林と異なりマサ土である。

森林・施業) 森林簿から、施業は確認されない。また、切株等もないことから、植栽当初の密度を保っていると考えられる。植栽配列なども含めて調査すると立木密度は 3,000 本/ha 相当である。民有林の森林簿から、施業を整理することは困難であり正確な情報は所有者にヒアリングしなければならない。

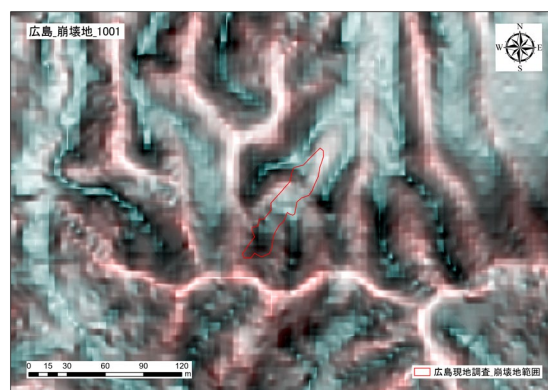
LP との立木密度の差は非常に多い。これは、樹冠がうっ閉していること、などから劣勢木などが航空 LP では抽出できなかった可能性が高い。

その他) 後述の 119 と近く、林齢も同じである。119 と比較して広葉樹の侵入が少ない。

災害後オルソ



微地形図 (災害前)



崩壊地全景



現地写真 崩壊地



小班	1へ	
樹種	ヒノキ	
林齢	21	
最終施業年	記録無	
崩壊幅	14.6	
崩壊延長	35.6	
崩壊面積	278.7	
尾根谷度	平均	0.8
傾斜	平均	28.1
雨量	72時間	445.9
地質	花崗岩	
森林土壌	森林簿	褐色森林土BA

		LP	現地
崩壊深度[m]	源頭部	2.0	1.0
	平均値	1.4	
	中央値	1.5	
	最大値	3.3	
	根系深度		0.3
土検棒	平均		0.6
	最大		1.1
LP	平均胸高直径[cm]	15.2	13.3
	平均樹高[m]	10.2	8.5
	立木密度[本/ha]	1,500	2,934
	断面積合計[m ² /ha]	27.2	40.8

(5) 現場番号 119

広島 民有林 現地見学会にて立ち寄り

【コメント】

崩壊・根系) 現地調査の崩壊深度から 1m 程度と想定される。林齢は 21 年生と若い。根の伸長は 0.3m 程度と浅い。土質は、国有林と異なりマサ土である。

森林・施業) 森林簿には施業と記述されているが、切株等もないことから下刈り程度と考えられ密度管理を実施した様子はない。そのため植栽当初の密度を保っていると考えられる。植栽配列なども含めて調査すると立木密度は 3,000 本/ha 相当である。民有林の森林簿から、施業を整理することは困難であり正確な情報は所有者にヒアリングしなければならない。

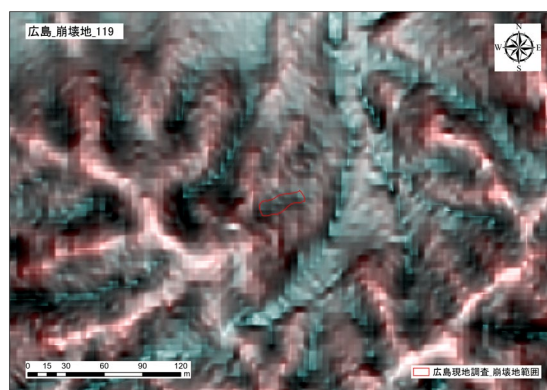
LP との立木密度の差は非常に多い。広葉樹も混じり樹冠を構成していることから、ヒノキの樹冠が読み取れなかったと思われる。

その他) 前述の 1001 と比較して広葉樹の侵入が多い。これは災害前の空中写真からも読み取れる。

災害後オルソ



微地形図 (災害前)



崩壊地全景



小班	4_へ	
樹種	ヒノキ	
林齢	21	
最終施業年	下刈	
崩壊幅	17.9	
崩壊延長	30.3	
崩壊面積	416.1	
尾根谷度	平均	0.3
傾斜	平均	28.9
雨量	72時間	459.8
地質	花崗岩	
森林土壌	森林簿	褐色森林土BA

		LP	現地
崩壊深度[m]	源頭部	0.6	1.0
	平均値	1.5	
	中央値	1.7	
	最大値	3.6	
	根系深度		0.3
土検棒	平均		0.9
	最大		1.5
LP	平均胸高直径[cm]	12.8	13.0
	平均樹高[m]	8.1	7.8
	立木密度[本/ha]	1,500	2,522
	断面積合計[m ² /ha]	19.3	33.5